

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2021年12月26日～
2022年1月1日）
臨時休館日 2022年1月5日・2月8日
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
()内は20名以上の団体料金

瓦版 大木戸

Kawaraban OKIDO

Vol.66

2021年（令和3年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/>

令和二年度屋外展示 「千葉のまつり」を終えて

令和二年十月三日（土）から十一月

二十三日（月祝）までの四十五日間、屋外

展示「千葉のまつり」を開催しました。例年、

展示は風土記の丘資料館で開催しています

が、今年は上総・下総・安房の農家を主会

場とし、総屋・めし屋・よしず小屋でも展

示を行いました。令和二年はオリンピック・

パラリンピックの年でもあり、海外からの

観光客を含め、多くの方に千葉のまつりに

触れていただく機会となる予定でした。し

かし、新型コロナウイルスの影響により、

当初計画していた神事や儀式の再現といっ

た形から、パネルや映像を使い、まつりを

紹介する形となりました。下総地域からは

香取市の「山倉の鮭祭り」、上総地域から

は市原市の「市原の柳楯神事」、安房地域

からは南房総市の「白間津のオオマチ」を

取り上げ、それぞれのまつりの紹介や使用

した道具や衣装を展示しました。さらに、

トピックスとして市川市の「大杉祭」、栄

町の「オダチ」を展示しました。また、ウオー

クラリー「千葉のまつり展示めぐり双六」

を実施し、各展示場所を廻るような仕掛け

も行い、多くの方がウォークラリーの用紙

を片手に館内を巡る姿が見られ、見学者の

分散化にも効果がありました。しかし、こ

のような形の屋外展示は、資料の管理を含

め、展示会を開催する上で多くの課題があ

ることもわかりました。

トピックスという形で紹介した市川市の

国分日枝神社の大杉祭の展示では、まつり

の際に拝殿に設置される船神輿を展示しま

した。この船神輿は全長約三メートル、高

さ約一メートル五十センチあり、今回が初

の市外での展示となりました。昭和十年ご

ろまでは担いで家々を巡っていたと言われ

ています。このような船の形をした神輿は

あまり見られないため、見学した方の興味

を大変引いていました。



市川市国分日枝神社の船神輿

また、今回展示したオダチは、もともと

栄町内の地区で使用されていたことはわ

かっていましたが、どの地区で使用されて

いたかは未確定でした。今回の展示の調査

で、酒直南部地区のものであることが判明

しました。さらに、当時を知る方にオダチ

の装飾をしていただき、当時の様子を再現

することもできました。現在栄町では、オ

ダチは木塚地区のみで実施されています

が、以前はその他の地区でも行われていた
ことが分かり、これを機会に調査を進めた
いと考えています。

三つのまつりのうち、私が担当した「山
倉の鮭祭り」では、以前に発行された調査
報告書の内容と比較すると、まつりの大筋
には変化はないものの、細部にはいくつも
の変化が見られます。本祭の日には、奉納
され塩漬けにした鮭の小さな切り身が入っ
た護符が頒布されます。この鮭の漬け方に
も違いが見られます。また、例祭式での行
列においても、行列の並びや衣装に変化が
見られます。特に猿田彦役の衣装は新調さ
れ華美なものとなっています。このような
変化もありますが、行列や神輿渡御の順路、
直会での進め方など、変わらずに行われて
いるものもあります。こういったことは「市
原の柳楯神事」や「白間津のオオマチ」で
も見られました。



「山倉の鮭祭り」
例祭式での行列の様子

会場：上総・下総・安房の各農家ほか
会期：令和2年10月3日（土）～
令和2年11月23日（月・祝）

今回主として取り上げた「白間津の才オマチ」は重要無形民俗文化財、「山倉の鮭祭り」・「市原の柳桶神事」は県指定無形民俗文化財に指定されています。こうした伝統を守りつつも、現在の状況と合わせながら、未来に存続させていこうと尽力する、実際のまつりでは見ることができない、まつりの関係者の姿を見ることができました。博物館として地域のまつりをとらえる際、内容と共に関係者の尽力の姿も併せて紹介することで、まつりの全体像をとらえることになると思います。

(商家グループ 高原)

下総の農家

「味噌」

房総のむらでは、毎年一月下旬に栄町安食の農家の作り方を参考にした「味噌作り」の演目を行っています。今年も休館中ではありましたが、農家の冬場の仕事の一つとして、一月二十三日・二十四日に「味噌作り」を行いました。

そこで今回は、「味噌」の歴史と人との関わりについて紹介します。

味噌は、醤油と並び日本独特の調味料であり、その起源は諸説ありますが、醤油と同じく古代からの発酵調味料「醤」や、大豆を発酵させた「鼓」がルーツと考えられています。飛鳥時代に朝鮮半島からの渡来人が、この醤や鼓を原型とした豆味噌の製法を伝えたのが日本の味噌作りの始まりとされています。以後、米味噌や麦味噌など

の多様な種類の味噌が作られるようになりました。

鎌倉時代の頃までは、豆腐や野菜に塗ったり、「みそうず」という雑炊にしたり、そのままおかずとして食べる「なめ味噌」が日々の副食品として食事で食べられていました。室町時代の頃から「漉し味噌」を溶かした味噌汁が一般的に飲まれるようになり、その味噌汁は江戸時代には毎日の食事の必需品となっていました。

味噌は、煮た大豆に塩と麴を混ぜ合わせた発酵食品で、特に自家製の味噌を「ウチミン」と呼び、家独自の味を大切にしていました。また、「三年味噌」といって三年間貯蔵したものを食べることが良いとされていました。「手前味噌」もここからきた言葉で、昔は自分の家で作ることが当たり前でした。「味噌を買う家に蔵は建たぬ」といわれるほど、味噌を買うことは贅沢なことでした。



→味噌（熟成前）

→味噌（一年熟成）

今回仕込んだ味噌は、甕に空気を抜きながら詰めていき、最後に表面をならして、笹を隙間なく敷いて、蓋をします。そのまま八月の土用まで貯蔵すればおいしく食べ

られます。もちろん三年貯蔵すればさらにおいしく食べられます。

今年度はコロナ禍によりお客様に体験して頂くことが出来ませんでした。来年度は是非「味噌作り」を体験してみたいかがでしょうか。

(農家グループ 鈴木)

風土記の丘資料館

「体験演目実施の

近況報告」

風土記の丘資料館は、改修工事で閉館中のため、拠点を房総のむら管理棟に移し、日常業務を行っています。体験演目についても、体験場所の確保と新型コロナウイルス感染症予防対策が対応できる演目について十月から実施しています。

人気演目の「原始・古代のアクセサリー作り」は、感染予防対策が十分に対応できる「勾玉作り」の仕上げ工程部分のみの実施とし、体験方法等に従来との変更もありましたが、多くの方々の参加がみられ大変好評を得ています。

里山観察会、子ども里山観察会、建物カードツアー、遺跡めぐりについても、感染対策として参加人数・体験時間の縮小などの変更がありますが、ほぼ年度当初どおりの日程で実施することができています。そして、参加者は各演目ともにほぼ満員の状況でした。

考古学講座は、当初、改修工事による閉館前の記念講演として開催を予定していま

したが、直前に新型コロナウイルス感染症拡大により当館が休館となってしまったため、中止せざるを得なくなりました。そこで、昨年度開催して大変好評であった企画展「龍角寺古墳群とその時代」に関連する「龍角寺古墳群と上福田古墳群」と題した講演会を当館の職員により旧学習院初等科正堂で実施しました。この講演会実施に当たっても、参加者の入場から開演・退場までの手順は感染症対策を踏まえてのものとし、今後の本会場での開催の良い経験となりました。



考古学講座

また、体験演目とは別に、商家町並みの中の一軒を「いにしえ堂」と名付け、不定期ではありますが、資料館職員手作りのオリジナルグッズをお土産として販売を行っています。

このように細々とはありますが、房総のむらの中で風土記の丘資料館の事業を行っておりますので、ご来館の際は、是非とも資料館演目の体験やオリジナルグッズをお買い求めください。

(風土記グループ 野口)

商家

「コロナ下での

団体体験の試行」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い休館となっていた房総のむらは、五月末から再開しました。その後、当日体験、予約体験と段階的に再開し、むらには活気が戻ってきましたが、現在も団体の受け入れ再開には至っていません。

団体体験担当としても、コロナ下でも子供たちに楽しく、安全に体験してもらえよう、団体受け入れの再開に向けた準備を始めました。感染防止に配慮して体験を実施するため、体験時間や体験人数、体験内容、そして換気や消毒などの実施方法を検討し、これを踏まえて館内の職員向けの体験シミュレーションを行いました。十二月には千葉県内の小学校三校にご協力いただき、団体体験再開に向けた「試行」を実施しました。体験は千代紙ろうそく作りを実施し、コロナ下での改善点がいくつか見えってきました。窓を開け、マスクをしていると職員の声が聞き取りにくいということが分かり、ハンディ拡声器を使用することにしました。密集を避けるため、千代紙の選び直しをやめることにしました。また、サーキュレーターの使用など更なる感染症対策を提案くださる学校もありました。

館内の職員ではなく児童たちや先生に体験していただくことで、コロナ下で実施する団体体験がどのようなものかを実感することができ、また貴重なご意見もいた

だくことができました。各学校団体の皆様には、今回の試行に協力していただいたことには大変感謝しています。試行の結果を踏まえ、より安全に、楽しく体験を行えるよう、改善を重ねていきたいと思えます。

児童の楽しそうな顔を間近に見ながらの体験実施は、職員にとっても大きな喜びです。新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、房総のむらに子供たちの笑顔が戻ってくることを切に願っています。

(商家グループ 宮内)

マスクottキャラクター

「ぼうじろー」

房総のむらでは、マスクottキャラクターの「ぼうじろー」が働いています。「ホオジロ」という千葉県の鳥と「房総のむら」から「ぼうじろー」と名付けられました。

ぼうじろーの仕事は、房総のむらで作っている野菜についた虫を退治することです。その他にも、ツイッターでの情報発信や、グリーンティング活動を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、例年のようにふれあいができなかったため、新しい形のグリーンティングを実施しました。今までは、握手やハイタッチをすることができましたが、コロナ禍では、ぼうじろーの周りに囲いを作り、距離を保ちながらの写真撮影となりました。また、商家町並み「めし屋」には「ぼうじろーの家」が出現しました。畳の上でくつろいだり、掃除をしたり、遊んだり、楽しそうに過ご

すぼうじろーの姿は、とても好評でした。



家でくつろぐぼうじろー

そして、閉館時間が近づくと、お客様の送迎をお見送りします。大木戸を出てすぐの「レスト写真館」のバルコニーから手を振りながら、お別れをしました。今年度は、例年のふれあいを実施することはできませんでしたが、今しか見ることのできない、ぼうじろーの姿をお楽しみいただくことができました。



バルコニーから見るぼうじろーのお見送り

また、「ミュージアムキャラクターアワード2020」では、第二位になりました。昨年度より四位もランクアップし、ぼうじろーも大喜びです。たくさんの方の投票をいただき、誠にありがとうございました。来年は一位になれるように頑張っていきたいと思っております。これからも応援をよろしく

お願いいたします。

(広報・普及グループ 高橋)

調査報告ノート

「祭礼と子どもたちとの

関わり」

本年度の屋外展示「千葉のまつり」で取り上げた「山倉の鮭祭り」は大人によって執り行われるため、基本的に子どもが参加する場面はありません。しかし、現在は例祭当日(十二月第一日曜日)の午前中に、子どもたちによる神輿渡御と境内での踊りが行われます。もともと関わりのない祭りに子ども集団がどのように関与していったのかを考えることで、祭礼の変容の一端を考えてみたいと思います。

氏子総代によると、このように子どもたちが祭礼に関わるようになったのは三十年ほど前からとの話です。『千葉県祭り・行事調査報告書』によると、平成十三年に調査した際には、大祭前日の宵祭の夕方、遷霊祭(みたまつし)の後に子供山車が町内を巡回するとの記述があります。また平成二十二年に作成された『山倉大神例祭実施要項』の交通関係係打ち合わせの要務の中に、「小学校パレード、子供神輿の指導」とあることから、この頃には実施されていたことが分かります。ここで出てきた小学校パレードが、現在の子どもたちによる神輿渡御と境内での踊りの基になります。このパレードの特徴は、交通安全パレードとして、小学校教育の中に組み込まれている点

です。当時の氏子総代が山倉小学校の校長に依頼したことが始まりだったようです。小学校パレードについて、平成三十年の記録から見ていきます。山倉小学校から山倉大神までの約一・五キロメートルを全校生徒約五十名で歩きます。交通安全標語のプラカードを先頭に、鼓笛隊、その後ろに鍵盤ハーモニカ隊、ボンボン隊と続きます。神社到着後は、祈願式が執り行われ、その後、神輿揉み、踊りが行われます。終了後は再び列を組み、学校へと戻ります。

このパレードの目的は、「登下校の仕方を振り返り、交通安全に対する意識を高め、規律正しい集団行動をすることを学ぶとともに、地域に伝わる伝統行事に参加し、地域の良さに気づき、自分たちも受け継いでいこうとする気持ちを持つ」となっています。学校教育だけでなく地域社会への関わりを学ぶ機会となりました。

しかし、翌平成三十一年に山倉小学校が周辺の学校と統合となり、例年同様には子どもたちが参加できない事態となりました。そこで、同年に隣の大角地区と共同で「山倉・大角つ子応援団事業」を立ち上げ



令和元年の祭礼における子ども神輿の渡御

ました。両区の子供たちが、山倉の鯉祭りや大角稻荷神社の祇園祭など地域行事に参加できるよう応援することを目的としています。こうして令和元年の山倉の鯉祭りでは、今までの交通安全パレードの代わりに、子どもたちによる子ども神輿の渡御と境内での踊りが行われました。また拝殿にて交通安全の祈願も執り行われました。



拝殿での交通安全祈願の様子

山倉大神宮司の國友氏も「子どもたちが参加すると、保護者や祖父母の皆さんも集まられて非常に盛況となる。今後子どもたちが関わっていくことは地域が活性化し、次代の祭礼へとつながっていくためにも大切なことだ。」と語られます。令和二年の祭礼では神輿の渡御や踊りは実施されませんでした。見に来た子どもたちにはお菓子のプレゼントがありました。

子どもたちと祭礼との関わりは、学校の統合を機に、地域の人々の協力の下、新しい形へと変化しました。祭礼全体においても、子どもたちが継続して関わることは、祭礼に活気を与え、次代への継承にもつながっていくのではないのでしょうか。

(商家グループ 高原)

動物調査について

現在、房総のむらでは、館内の自然に暮らす動物の調査を実施しています。昨年末からは、自動撮影カメラを設置し、写真や動画を撮影することもできました。館内には、フィールドサイン（足跡やフン）もたくさんあり、多くの動物が暮らしていることがわかります。ご来館の際は、足元にも気を配りながら、豊かな自然の中での散策をお楽しみください。

(広報・普及グループ 高橋)

◆編集後記◆

厳しい寒さも少しずつ和らぎ、暖かい春の日射しを感じる穏やかな季節となりました。

房総のむらでは、おまつり広場の桜が見頃をむかえています。この時期にしか見ることのできない美しい景色をぜひご覧ください。

ご来館の際は、適度な距離を保ちながら、館内を散策し、春の訪れを感じてみてはいかがでしょうか。

(広報・普及グループ 高橋)

令和3年度 上半期のイベント

- 春のまつり
5月3日(月・祝)～5日(水・祝)
- 房総座
6月26日(土)
- 伝統文化入門
6月20日(日)、8月1日(日)
- 教職員を対象とした博物館活用研修会
7月30日(金)
- むらの縁日・夕涼み
8月7日(土)、8日(日)
- 北総江戸めぐり
9月20日(月・祝)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合がございます。

